UNICEF Teachers' Network 通信

ユニセフT(ティー)・NET(ネット)通信

2015 SPRING
No.60

公益財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部
〒108-8607　東京都港区高輪 4-6-12　ユニセフハウス　TEL:03-5789-2014　FAX:03-5789-2034
Email: se-jcu@unicef.or.jp　ホームページ http://www.unicef.or.jp
募金口座▶郵便振替：00190-5-31000　（公財）日本ユニセフ協会（送金手数料免除 ※窓口振込のみ）

特集

© UNICEF/BANA2012-02025/Martin

「イノベーション」が世界を変える！

「世界子供白書2015」のテーマは、“イノベーション（技術革新）”です。今回のT-NET通信の特集では、イノベーションの背景や、ユニセフが掲げる「公平性のためのイノベーション」についてご紹介します。

イノベーションの背景

“イノベーション”という言葉を聞くと、最先端の設備が整った研究施設で、天才的な研究チームが生み出すもの、というイメージを持つかもしれません。

しかしながら、ユニセフの紹介するイノベーションは、その限りではありません。その多くは、身の回りにある既存のものを活用した、低予算でありながら高い持続可能性が期待できるものです。また、イノベーションの担い手は若者であるケースも多く、彼らの既存の枠組みに捉われない、自由な発想から生み出されるものも多くあります。

ユニセフとイノベーション

ユニセフはイノベーションチームを形成し、テクノロジーを特定、試作、拡大し、ユニセフの活動の強化に取り入れています。世界中の子どもたちの生活を改善するイノベーションを設計し、拡大しています。いくつかの国には、政府や民間部門、学術団体や若者たちを結びつけるイノベーション研究室があり、それぞれの国が抱える特定の問題への解決策を生み出し、実行することを目指しています。

「公平性のためのイノベーション」

子どもの未来をより良いものにする可能性を秘めたイノベーションですが、最も厳しい状況にある子どもたちが、その恩恵を受けられるものでなければなりません。ユニセフはこれを「公平性のためのイノベーション」と呼んでいます。イノベーションが、子どもの格差を広げるものであることは許されないのです。

ユニセフが掲げる「公平性のためのイノベーション」とは、具体的に以下のようなものを指します。

公平性のためのイノベーション

1. 従来の方法では支援の手が届かなかった子どもたちに、手を差し伸べることを目指す
2. 利用者と共に設計し、弱い立場にある子どもたちなどが恩恵を受けられるよう、適正に価格設定されている
3. 子どもの権利についての原則に基づき、全ての子どもとその家族が高品質の品物やサービスを享受する機会を平等に得られる
4. 子どもたちや若者、コミュニティが変化の主体となれる
5. 地域の社会、文化、経済、制度等に根差しており、異なる状況に対応できる
6. 確かな証拠に基づき、厳密なモニタリング、評価、改善に耐えられる
7. 国やコミュニティの経済的・環境的制約がある中でも持続可能で、補助金に頼ったり、天然資源を減少・劣化させたりしない
8. 拡大可能で、特定の状況に沿いながらも極力多くの人たちに恩恵をもたらす
9. 失敗を恐れない

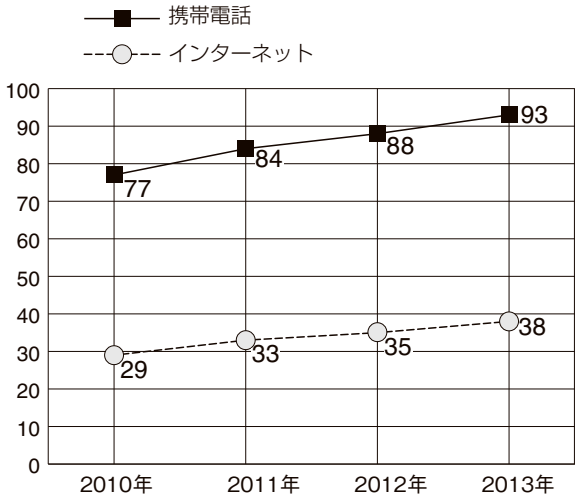
今後の見通し

下のグラフ1のように、世界中でインターネットや携帯電話の利用は着実に拡大し、今後も加速度的に広がっていくことが予想されます。このような流れの中で、インターネットや携帯電話などのITに関わるイノベーションが多く生まれることが期待されます。

ただし、前述のように、イノベーションが、限られた観客を楽しませる単発の打ち上げ花火のようにならないよう、構想段階から公平性や持続可能性に配慮し、モニタリングしていく必要があります。

グラフ **1**

世界の人口100人あたりの携帯電話の契約件数／インターネット利用者



「世界子供白書」統計表と総務省ホームページ掲載情報をもとに作成

Information

「世界子供白書2015〈要約版〉」の日本語版をご希望の方は、下記までご請求ください。

1冊まで無料、2冊目以降は1冊につき240円と送料のご負担をお願いいたします。

(公財)日本ユニセフ協会　学校事業部

TEL: 03-5789-2014

FAX: 03-5789-2034

E-mail: se-jcu@unicef.or.jp

世界に広がるイノベーション
イノベーション

視覚障がい者用コンピューター操作システム（モルドバ）

目が不自由なモルドバの16歳の女の子、ダイアナ・マルジックさんは、視覚障がい者が声によって容易にコンピューターを操作できるアプリケーションを開発しました。

若者たちがコンピューターやインターネットを長時間使うようになっている中で、今後、目に関係する病気や問題が増えることを予測し、このアプリケーションが、そのような問題の回避にも役立つことを望んでいます。

関連動画　http://youtu.be/pp1Z6u4nzZk

© UNICEF

低コストのコンピューターによる学習機会の提供（レバノン）

多くのシリア難民が身を寄せるレバノンでは、教育危機が深刻になっており、国内で30万人の子どもたちが教育の機会を奪われています。

ユニセフ・イノベーションは、「ラズベリー・パイ」という廉価のハードディスクを基盤に、様々な機能を持つコンピューターを開発しました。子どもたちは、このコンピューターでプログラミングやゲーム制作をしながら、技術を学ぶことができます。ユニセフ・イノベーションのジェームス・クラウンウェル・ワード氏は、このコンピューターで学習した子どもたちが、今後ITの分野などで技術革新に携わることを期待しています。

© UNICEF

の実例

船上学校（バングラデシュ）

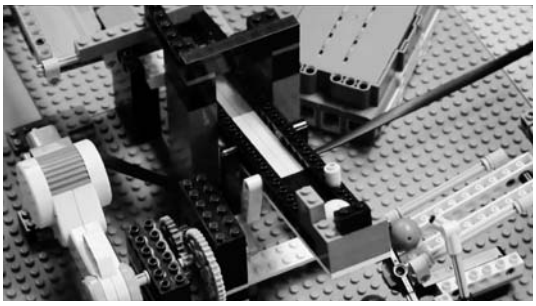
船上学校はバングラデシュのNGO創始者・事務局長のモハマド・レズワン氏が考案した、洪水頻発地域の子どもたちが一年を通じて教育を受けられる学校です。それぞれの子どもたちを迎えに行き、全員揃うと岸辺に停泊し、授業を開始します。この船上学校は、2002年には1隻でしたが、現在は54隻を擁するまでになりました。

© UNICEF/NYHQ2008-1803/Noorani

レゴ・ユー・マインド（ジャマイカ）

「レゴ・ユー・マインド」は、ジャマイカの子どもたちにロボット工学を広めるため、元数学教師のマーヴィン・ホール氏が開催するワークショップです。家庭の経済状況や学歴に関わらず、どのような若者にも門戸を開いています。ワークショップでは、レゴブロックでロボットを組み立てる作業などを通じて、子どもたちの創造性や問題解決能力を育成します。ホール氏は、ワークショップを通じて、このような能力を向上させた若者たちが、それぞれの生まれ育ったコミュニティをより良いものにしてゆくことを期待しています。

関連動画　http://youtu.be/odtTm_fSioQ



© UNICEF

Uレポート（ウガンダ）

「Uレポート」は、ユニセフ・ウガンダ事務所が開発した、携帯電話のショートメッセージサービスを基盤としたシステムです。

全国の若者が、自身のコミュニティについて発言、意見交換を行うツールとして活用しています。ユニセフは、若者のUレポート参加者（Uレポーター）を募り、様々な形での調査や啓発活動を行っています。

ウガンダでは、Uレポーターが週1回、テキストメッセージやアンケートを送信しています。また、Uレポートに関するラジオ番組も定期的に放送されています。

関連動画　http://youtu.be/Gt1DmrEhTnw

© UNICEF/NYHQ2015-0133/Naftalin

ソーラーイヤー（ジンバブエ）

「ソーラーイヤー」は、Deaftronic社のテェンデカイイ・カシガ氏が開発した、太陽光発電式の補聴器の電池の充電器です。電気供給が不安定なコミュニティの人々のために生まれ、現在、アフリカの40か国以上で販売されています。市場に流通する補聴器用電池の8割ほどを充電することができ、2～3年は繰り返し使用することができます。充電のための費用もかからないため、聴覚に障がいのある家族をもつ家庭の経済的負担も軽減することができます。カシガ氏は、聴覚に障がいのある人たちの未来が、補聴器の電池切れで閉ざされず、彼らが将来の変革の担い手となることを信じています。

© UNICEF/NYHQ2014-3053/O'Donoghue

関連動画　http://youtu.be/hG957ix5NiO